吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		電子工学	I	担当教員				加川 宗芳			
(科目ID)				(実務経験)	有口	# [V				
対象年次・学期	1年·ji	通期		必修·選択区分	必修			単位数	2単位		
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15			時間数	30時間		
授業目的	医療机	機器の中には多く電子[回路が組み込まれて	ている。それらの役割を理解す	するために、	電子回路素	長子の基	本動作、増幅、信	号処理などを学習する。		
到達目標	·法則 ·ME2	や定理などを説明でき 種や国家試験に数多く	る。 出題される傾向に	あり、それらの問題を解ける。							
テキスト・ 参考図書等	臨床二	工学講座 医用電子工	学 第2版(医歯薬)	出版)							
		評価方法	評価割合(%)		評価基準						
	試験		100%								
評価方法・	レポート 9										
評価基準	ルテスト 9			①中間試験 ②定期試験 以上を総合して評価する。	②定期試験						
	提出物										
	その他 9										
履修上の 留意事項		書だけではなく、質疑応 からない部分はそのま			照できるよう	に努めるこ	<u>-</u> ك				
			履修主題					履修内容			
	1	半導体			半導体						
	2	ダイオード			ダイオード						
	3	整流平滑回路			平滑化、波	形整形回路	各				
	4	波形整形回路			クランプ回路	各、リミッタ、	、スライ	y			
	5	トランジスタの基礎			トランジスタ	、増幅器					
	6	トランジスタの基礎			デシベル						
	7	バイポーラトランジス	タ		バイポーラト	ーランジスタ	の特徴	と構造			
履修主題· 履修内容	8	バイポーラトランジス	タ		バイポーラト	・ランジスタ	の動作	原理			
	9	ユニポーラトランジス	タ		ユニポーラト	ーランジスタ	タの特徴	と構造			
	10	ユニポーラトランジス	タ		ユニポーラト	ーランジスタ	の動作	原理			
	11	オペアンプ			オペアンプロ	の特徴					
	12	オペアンプ			反転・非反車	运 増幅回路	š				
	13 オペアンプ				加算回路·差動增幅回路						
	14 オペアンプ				微分回路・積分回路、ボルテージフォロア						
	15 まとめ				問題演習						

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		計測工学		担当教員			鈴木 和彦				
(科目ID)		22r118		(実務経験)	有□	#					
対象年次・学期	1年・後			必修·選択区分	必修		単位数	2単位			
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15	15 時間数 30時間					
授業目的	理工学	さの基礎となる科目で も	あり、物体の状態(長	き、温度など)を評価するた	めに欠かせな	い。単位や誤差	について学ぶととも	に、センサの使い方を学習する。			
到達目標	·SI単作	位系について説明でき	る。・Arduinoとセン	yサを用いて、対象とする物理	里量を測定でき	きる。					
テキスト・参考図書等	適宜、	資料を配付する。									
		評価方法	評価割合(%)		評価基準						
	試験 100%										
評価方法・	レポー	-	%								
評価基準	小テス	!	%	試験により評価する。							
	提出物	b	%								
	その他	<u>1</u>	%								
履修上の 留意事項	①板書だけでなく、質疑応答の中でのキーワード等もメモを取り、後から参照できるように努めること。 ②わからない部分はそのままにせず、質問をすること。 ③ソートPC、関数電卓、A4レボート用紙を準備すること。										
	回数		履修主題				履修内容				
	1	計測の基礎(1)			SI単位と次元	;					
	2	計測の基礎(2)			計測論						
	3	計測の基礎(3)			誤差と雑音						
	4	計測の基礎(4)			トランスデュー	ーサ(1)					
	5	計測の基礎(5)			トランスデュー	ーサ(2)					
	6	計測の基礎(6)			信号処理(1)						
履修主題•	7	計測の基礎(7)			信号処理(2)						
履修内容	8	計測の基礎(8)			まとめ						
	9	Arduinoとセンサ(1)			マイコンと電-	子計測					
	10	Arduinoとセンサ(2)			LEDと可変抵	抗(1)					
	11	Arduinoとセンサ(3)			LEDと可変抵	抗(2)					
	12 Arduinoとセンサ(4)				距離センサ(ま	超音波と赤外線)(1)				
	13 Arduinoとセンサ(5)				距離センサ(ま	超音波と赤外線)(2)				
	14 Arduinoとセンサ(6)				温度センサと信号処理(1)						
	15 Arduinoとセンサ(7)				温度センサと						

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		電気工学実	習	担当教員			小山 有基					
(科目ID)		22r119		(実務経験)	有口	#						
対象年次・学期	1年・後	发期		必修·選択区分	必修		単位数	1単位				
授業形態	実習			授業回数(1回90分)	15		時間数	30時間				
授業目的	講義で	で学習した電気工学の	基礎を、実習を通じ	て原理および結果から考察す	る。							
到達目標	・電気	測定器・工具を使用で	きる。・データ処理	ができる。・データおよび自	身の考えをす	きとめ、第三者に	伝えることができる。					
テキスト・ 参考図書等	毎時間	『プリントを配付する。										
		評価方法	評価割合(%)		評価基準							
	試験		%									
評価方法・	レポー	-	100%									
評価基準	小テス	!	%	各実験ごとにレポートの提出 提出されたレポートを総合し	¦ て評価する。							
	提出物	'n	%									
	その他	<u>b</u>	%									
履修上の 留意事項	ポート	は実習終了後、期限す	でに提出すること。		当該実験を実			いこと。③実習内容をまとめたレ レポートを作成・提出する。⑤レ				
	回数		履修主題				履修内容					
	1	キルヒホッフの法則(1)		キルヒホッフの法則							
	2	キルヒホッフの法則(2)		キルヒホッフの法則							
	3	電磁誘導(1)			電動機、発電	電機						
	4	電磁誘導(2)			電動機、発電	電機						
	5	電磁誘導(3)			変圧器							
	6	電磁誘導(4)			変圧器							
	7	オシロスコープ操作法	Ę		オシロスコー	-プの操作						
履修主題· 履修内容	8	コンデンサ(1)			RC回路							
	9	コンデンサ(2)			RC回路							
	10	コンデンサ(3)			RC回路							
	11	コンデンサ(4)			RC回路							
	12	コンデンサ(5)			RC回路							
	13	コンデンサ(6)			RC回路							
	14	電気工作(1)		ハンダ付け								
	15	電気工作(2)			ハンダ付け							

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		システム工学	≠ I	担当教員			山内 芳子				
(科目ID)				(実務経験)	有□	# E					
対象年次・学期	1年•前	立		必修·選択区分	必修		単位数	2単位			
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15	5 時間数 30時間					
授業目的				構成される系のことで、理工学 成や動作原理、ネットワーク				用語も用いられている。ここでは、			
到達目標				どを論じることができる。 あり、それらの問題を解ける。							
テキスト・ 参考図書等	臨床工	□学講座 医用情報処:	理工学 第2版(医的	南薬出版)							
		評価方法	評価割合(%)		評価基準						
	試験 100										
評価方法・	レポート %										
評価基準	小テスト % 試験により評価			試験により評価する。							
	提出物 96										
	その他	1	%								
履修上の 留意事項											
	回数		履修主題				履修内容				
	1	システムとは			システムとは						
	2	ディジタルデータの表	し方(1)		アナログとデ	イジタル					
	3	ディジタルデータの表	し方(2)	2進数、16進数と10進数とその変換							
	4	ディジタルデータの表	し方(3)		文字データと	:画像データ					
	5	ディジタルデータの表	し方(4)		圧縮と解凍						
	6	論理回路(1)			論理回路とフ	ブール代数					
履修主題•	7	論理回路(2)			論理回路の簡	簡単化					
履修内容	8	論理回路(3)			半加算器と全	全加算器					
	9	コンピュータの基本構	成(1)		コンピュータの	の基本構成					
	10	コンピュータの基本構	成(2)		入力装置、出	出力装置、記憶装	七置				
	11	コンピュータの動作原	理		インターフェー	ース、OS、プログ	゚ラミング				
	12	プログラミングの基礎	į		アルゴリズム	•					
	13 データベース				データベース						
	14 ネットワーク				ネットワーク						
	15 まとめ				まとめ						

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		情報処理	1	担当教員				佐藤 昌代		
(科目ID)				(実務経験)	有口	無		別紙1参照		
対象年次·学期	1年•前			必修·選択区分	必修			単位数	1単位	
授業形態	演習			授業回数(1回90分)	8			時間数	15時間	
授業目的	現在の 学ぶ。)医療現場は、パソコン	vがなければ日常業	務ができないほど、パソコン・	への依存が	大きい。	この講義	では、文章作成と表	計算、スライド作成の基本操作を	
到達目標	Word,	ExcelおよびPower Po	intの基本操作がで	きる。						
テキスト・ 参考図書等	30時間	引アカデミック 情報リラ	テラシー Office2016	;(実教出版)						
		評価方法	評価割合(%)	評価基準						
	試験		60%							
評価方法・	レポー	· k	%	@Th=27 = -1 ()						
評価基準	小テス	!	%	①確認テスト(Word) 30% ②確認テスト(Excel) 30% ③スライド作成(Power Point) 40% ――――――――――――――――――――――――――――――――――――						
	提出物	d	40%							
	その他	<u>1</u>	%							
履修上の 留意事項	課題にそって初心者を重点的に扱いながら進めます。毎時間のデータ保存を忘れずに行うこと。 *以下の履修内容を8回の授業で実施する。									
	回数		履修主題					履修内容		
	1	Word基礎知識			文字入力、	印刷、装	美飾			
	2	Word編集			作表•作図	・表の編	i集			
	3	Word総合演習(1)		問題演習(1)						
	4	Word総合演習(2)			問題演習(2)				
	5	Excel基礎知識			データ入力	」、印刷、	書式、表	示形式、配置		
	6	Excel数式と関数(1)			相対参照・	絶対参照	照、関数(1)		
履修主題•	7	Excelグラフと図形			グラフと図	形の作品	せい おいま だい はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう しんしょう はんしょう しんしょう しんしゃ しんしょう しんしょく しんしょ しんしょ しんしょ しんしょ しんしょ しんしょ しんし			
履修内容	8	Excelデータベース			データベー	ス機能、	並べ替え	、抽出		
	9	Excel総合演習(1)			問題演習(1)				
	10	Excel総合演習(2)			問題演習(2)					
	11	PowerPoint基礎知識		文字入力、	図形描	曲				
	12	PowerPoint基礎知識	(2)		スライド構	成、アニ	メーション			
	13	PowerPoint総合演習		スライド作成(1)						
	14	PowerPoint総合演習	(2)		スライド作成(2)					
	15	PowerPoint総合演習	(3)		スライド作成(3)					

2023年度 吉田学園医療歯科専門学校 臨床工学科 別紙1

2020一度	口四于西庭派	211 11 1171X	<u>ши</u> / — — 1	7		י אַנוּוי ניניל
授業科目	情報処理	担当教員	小山	」有基	ŧ	
(科目ID)		(実務経験)	有□	無	V	
対象年次·学期	1年·前期	担当教員	山内	芳子	7	
授業形態	演習	(実務経験)	有□	無	V	
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		医用工学概言	â I	担当教員				上田 恒介				
(科目ID)		22r123		(実務経験)	有□	無						
対象年次・学期	1年・後			必修·選択区分	必修			単位数	2単位			
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15			時間数	30時間			
授業目的	医学と	:工学の学際的な学問	である医用工学を概									
到達目標	工学的	り基礎知識と医療機器	の管理に必要な知言	載をつなげられるようになる。								
テキスト・ 参考図書等	臨床コ	二学技士標準テキスト	第4版 (金原出版)								
		評価方法	評価割合(%)		評価基準							
	試験 100											
評価方法・	レポート %											
評価基準	小テスト 96 試験により評			試験により評価する。								
	提出物 %											
	その他 %											
履修上の 留意事項	実際に	- 臨床にて使用する医	用機器から必要な基	基礎へと演繹的に学習を進め	る。内容が多	ら岐にネ	ったるため	、しっかりと予習復習	習をすること。			
	回数		履修主題					履修内容				
	1	CEに必要な工学(1)			臨床工学技	士業務	におけるこ	工学知識の活用(1)				
	2	CEに必要な工学(2)			臨床工学技士業務における工学知識の活用(2)							
	3	CEに必要な工学(3)			生体システ.	4						
	4	CEに必要な工学(4)			生体の合目	的性						
	5	CEに必要な工学(5)			ポーランド訂	己法						
	6	CEに必要な工学(6)			電気人工喉	頭						
履修主題•	7	CEに必要な工学(7)			電気聴診器							
履修内容	8	CEに必要な工学(8)			除細動器の	原理∙杮	冓造(1)					
	9	CEに必要な工学(9)			除細動器の	原理∙柞	冓造(2)					
	10	CEに必要な工学(10)			除細動器の	原理∙杮	冓造(3)					
	11	CEに必要な工学(11)			電気メスの	原理・構	造(1)					
	12 CEに必要な工学(12)				電気メスの	原理・椿	造(2)					
	13 CEに必要な工学(13)				ペースメーカの原理構造(1)							
	14 CEに必要な工学(14)				ペースメーカの原理構造(2)							
	15	CEに必要な工学(15)			医用機器安							

吉田学園医療歯科専門学校

		#F ## — 224		10 V #L B				++++ /4>	
授業科目 (科目ID)		物性工学	•	担当教員				村林 俊	
		22r117		(実務経験)	有□	無			
対象年次・学期	1年・後			必修·選択区分	必修			単位数	2単位
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15			時間数	30時間
授業目的	生体物	7性を学習する上で必	要な基礎を学び、そ	の知識基盤を構築する。					
到達目標	生体物	7性の習得にあたって,	必須となる生体を構	成する物質の構造と特性に	関し説明できる	るように	なる。		
テキスト・ 参考図書等	臨床エ	⊑学技士のための生体	物性(コロナ社)						
		評価方法	評価割合(%)				評価基	基準	
	試験 100%								
評価方法・	レポー	·F	%						
評価基準	小テス	۱,	%	試験により評価する。					
	提出物	7	%						
	その他 %								
履修上の 留意事項		書を基本とするが、必要 わからない部分はその		質疑応答の呼	中での:	キーワー	-ド等もメモを取り、征	後から参照できるように努めるこ	
	回数						履修内容		
	回数	物性工学とは	履修主題		物質の示す物	勿理的	性質、物		ほとは、生体物性とは
		物性工学とは生命	履修主題						
	1		履修主題		水と生命、生	体の構	成と階層	質とは、物理的性質	る元素
	1 2 3	生命			水と生命、生原子の構造と	体の構	成と階層 周期律	質とは、物理的性質 層性、生体を構成す と周期表、原子の結	る元素
	1 2 3	原子と化学結合			水と生命、生原子の構造と	体の権生性質、	周期律	質とは、物理的性質 層性、生体を構成す と周期表、原子の結	る元素 活合 、金属結合の性質と物性
	1 2 3 4 5	生命原子と化学結合イオン結合と金属結合	à		水と生命、生原子の構造との標準との構造との構造との	体の構造性質、	周期律・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	質とは、物理的性質 層性、生体を構成す と周期表、原子の結 結合の性質と物性	る元素 合 金属結合の性質と物性 住度と分子の極性
履修主題・	1 2 3 4 5	生命 原子と化学結合 イオン結合と金属結合 共有結合	in the second se		水と生命、生原子の構造との 原子構造との 共有結合とに 単糖類、オリ	体の様と性質、イオン化は、炭素が糖、、	成と階層 周期律 、イオン の共有 多糖類、	質とは、物理的性質	る元素 合 金属結合の性質と物性 住度と分子の極性
履修主題・ 履修内容	1 2 3 4 5 6	生命 原子と化学結合 イオン結合と金属結合 共有結合 生体構成物質(1)糖3	質パク質		水と生命、生原子の構造との 原子構造との 共有結合とは 単糖類、オリアミノ酸、タン	体の構造性質、イオン化は、炭素が、ボーク質	問期律 、イオン の共有 多糖類、	質とは、物理的性質 層性、生体を構成す と周期表、原子の結 結合の性質と物性 結合体式、電気陰性 糖タンパク質、糖質	る元素 一会には、金属結合の性質と物性 生度と分子の極性 の性質と物性
	1 2 3 4 5 6 7 8 8	生命 原子と化学結合 イオン結合と金属結合 共有結合 生体構成物質(1)糖3 生体構成物質(2)タン	質パク質		水と生命、生原子の構造との 原子構造との 共有結合とは 単糖類、オリアミノ酸、タン	体の様性質、オン化・炭素・デールパク質・基、	成と階層 周期律 、イオン の共有 多糖類、 の構造。 ヌクレオ	質とは、物理的性質 層性、生体を構成す と周期表、原子の結 結合の性質と物性 結合様式、電気陰性 糖タンパク質、糖質 と性質、酵素	る元素 一会には、金属結合の性質と物性 生度と分子の極性 の性質と物性
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	生命 原子と化学結合 イオン結合と金属結合 共有結合 生体構成物質(1)糖3 生体構成物質(2)タン 生体構成物質(3)核菌	質パク質		水と生命、生原子の構造との 原子構造との 共有結合とに 単糖類、オリアミノ酸、タン 核酸の構造、 単純脂質、核	体の構造ない。	成と階層 周期律 、イオン有 多糖類、 の構造。 ヌクレオーポケ	質とは、物理的性質 層性、生体を構成す と周期表、原子の結 結合の性質と物性 結合様式、電気陰性 糖タンパク質、糖質 と性質、酵素	る元素 る元素 金属結合の性質と物性 性度と分子の極性 の性質と物性
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	生命 原子と化学結合 イオン結合と金属結合 共有結合 生体構成物質(1)糖3 生体構成物質(2)タン 生体構成物質(3)核配 生体構成物質(4)脂3	質パク質		水と生命、生原子の構造との 原子構造とくり 共有結合とに 単糖類、オリアミノ酸、タン 核酸の構造、 単純脂質、複細胞の構造、	体の様に性質、イオン化炭素・ボーパク質・基、脂質・細胞胆・	成と階層は、イオンの大きののでは、一般では、大きののでは、大きのでは、までは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、たらでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、たらでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、たらでは、たらでは、たらでは、たらでは、たらでは、たらでは、たらでは、たら	質とは、物理的性質 層性、生体を構成す と周期表、原子の結 結合の性質と物性 結合様式、電気陰性 糖タンパク質、糖質 と性質、酵素 ・シド、ヌクレオチド、	る元素 る元素 金属結合の性質と物性 性度と分子の極性 の性質と物性
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 111	生命 原子と化学結合 イオン結合と金属結合 共有結合 生体構成物質(1)糖質 生体構成物質(2)タン 生体構成物質(3)核配 生体構成物質(4)脂質	質パク質		水と生命、生原子の構造との 原子構造とて 共有結合とに 単糖類、オリアミノ酸、タン 核酸の構造、 単純脂質、複細胞の構造、 能動的特性、	体の様に性質、化は、対し、は、対し、は、対し、対し、は、対し、は、対し、は、対し、は、対し、	成と階層による。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	質とは、物理的性質 層性、生体を構成す と周期表、原子の結 結合の性質と物性 結合様式、電気陰性 糖タンパク質、糖質 と性質、酵素 ・シド、ヌクレオチド、 にいパク質 位、細胞外シグナル	る元素 合合 金属結合の性質と物性 住度と分子の極性 の性質と物性
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	生命 原子と化学結合 イオン結合と金属結合 共有結合 生体構成物質(1)糖3 生体構成物質(2)タン 生体構成物質(3)核i 生体構成物質(4)脂3 細胞 生体の電気特性	質パク質酸		水と生命、生原子の構造との 原子構造とて 共有結合とに 単糖類、オリアミノ酸、タン 核酸の構造、 単純脂質、複細胞の構造、 能動的特性、	体の様には、ないないでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	成と階層により、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	質とは、物理的性質 層性、生体を構成す と周期表、原子の結 結合の性質と物性 結合体式、電気陰性 糖タンパク質、糖質 と性質、酵素 ・シド、ヌクレオチド、 にシパク質 位、細胞外シグナル 神経伝達機構 線図、フックの法則、	る元素 合合 金属結合の性質と物性 住度と分子の極性 の性質と物性
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	生命 原子と化学結合 イオン結合と金属結合 共有結合 生体構成物質(1)糖3 生体構成物質(2)タン 生体構成物質(3)核配 生体構成物質(4)脂3 細胞 生体の電気特性 生体の力学的特性	質パク質酸		水と生命、生原子の構造とれて、大有結合とに単糖類、オリアミノ酸、タン核酸の構造、単純脂質、核細胞の構造、能動的特性、弾性、塑性、血液の粘度、	体体性は、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	成とというないである。このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、	質とは、物理的性質 層性、生体を構成す と周期表、原子の結 結合の性質と物性 結合体式、電気陰性 糖タンパク質、糖質 と性質、酵素 ・シド、ヌクレオチド、 にシパク質 位、細胞外シグナル 神経伝達機構 線図、フックの法則、	る元素 合合 金属結合の性質と物性 住度と分子の極性 の性質と物性

吉田学園医療歯科専門学校臨床工学科

授業科目		医用機器学概	I論 I	担当教員			本吉 竜浩				
(科目ID)		22r124		(実務経験)	有☑	# □		療機器を用いた循環器、呼吸器、泌尿器 、当該科目の教育を行う。別紙1参照			
対象年次·学期	1年・後	ž期		必修·選択区分	必修		単位数	2単位			
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15		時間数	30時間			
授業目的	臨床エ	二学技士が管理する医	療機器について幅原	太〈学ぶ。							
到達目標	臨床エ	二学技士が管理する医	療機器について広く	〈習熟することで、臨床工学技	支士の業務内容を	正しく区別で	できるようになる。				
テキスト・ 参考図書等		-学技士標準テキスト -学プラクティカル・フル									
		評価方法	評価割合(%)	評価基準							
	試験 9										
評価方法・	レポー	۲	100%								
評価基準	小テスト			レポートにより評価する。							
	提出物										
	その他										
履修上の 留意事項		は臨床工学の専門に触っかりと予習復習をする		ある。実際に臨床にて使用す	る医用機器から	必要な基礎・	へと演繹的に学習を	進める。内容が多岐にわたるた			
	同数		履修主題				履修内容				
	回数	CFに求められる機器	履修主題		集中治療室にお	ける機器管	履修内容				
	1	CEに求められる機器 CEに求められる機器	管理業務(1)		集中治療室にお		理(1)				
	1 2	CEに求められる機器	管理業務(1)		集中治療室にお	ける機器管	理(1)				
	2		管理業務(1) 管理業務(2) 管理業務(3)			ける機器管	理(1)理(2)				
	1 2 3	CEに求められる機器 CEに求められる機器	管理業務(1) 管理業務(2) 管理業務(3) 管理業務(4)		集中治療室におカテーテル室にお	ける機器管	理(1) 理(2) 管理(1)				
	1 2 3 4 5	CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器	管理業務(1) 管理業務(2) 管理業務(3) 管理業務(4) 管理業務(5)		集中治療室にお カテーテル室によ カテーテル室によ	ける機器管にける機器管にける機器管理業機器管理業	理(1) 理(2) 管理(1) 管理(2) 務(1)				
	1 2 3 4 5 6	CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器	管理業務(1) 管理業務(2) 管理業務(3) 管理業務(4) 管理業務(5) 管理業務(6)		集中治療室にお カテーテル室にも カテーテル室にも 手術室における	ける機器管 にける機器1	理(1) 理(2) 管理(1) 管理(2) 務(1)				
履修主題· 履修内容	1 2 3 4 5 6 7	CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器	管理業務(1) 管理業務(2) 管理業務(3) 管理業務(4) 管理業務(5) 管理業務(6)		集中治療室におカテーテル室によカテーテル室によ 手術室における	ける機器管 にける機器に にける機器に 機器管理業 機器管理業	理(1) 理(2) 管理(1) 管理(2) 務(1) 務(2)				
	1 2 3 4 5 6 7 8 8	CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器	管理業務(1) 管理業務(2) 管理業務(3) 管理業務(4) 管理業務(5) 管理業務(6) 管理業務(7)		集中治療室にお カテーテル室にも カテーテル室にも 手術室における 手術室における 病棟機器管理業	ける機器管 Sける機器 Siける機器 機器管理業 機器管理業 務 機器管理業	理(1) 理(2) 管理(1) 管理(2) 務(1) 務(1)				
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器	管理業務(1) 管理業務(2) 管理業務(3) 管理業務(4) 管理業務(5) 管理業務(6) 管理業務(7) 管理業務(8)		集中治療室にお カテーテル室にお カテーテル室にお 手術室における。 手術室における。 透析室における。 透析室における。	ける機器管 らける機器1 らける機器1 機器管理業 機器管理業 機器管理業 機器管理業	理(1) 理(2) 管理(1) 管理(2) 務(1) 務(1)				
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器	管理業務(1) 管理業務(2) 管理業務(3) 管理業務(4) 管理業務(5) 管理業務(6) 管理業務(7) 管理業務(8) 管理業務(9)		集中治療室にお カテーテル室にお カテーテル室におけるが 手術室におけるが 病棟機器管理業 透析室におけるが 透析室におけるが 透析室におけるが 急性血液浄化療	ける機器管 らける機器 らける機器 は 機器管理業 機器管理業 機器管理業 機器管理業 法における	理(1) 理(2) 管理(1) 管理(2) 務(1) 務(2)				
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器 CEに求められる機器	管理業務(1) 管理業務(2) 管理業務(3) 管理業務(4) 管理業務(5) 管理業務(6) 管理業務(7) 管理業務(8) 管理業務(9) 管理業務(10)		集中治療室にお カテーテル室にお カテーテル室におけるが 手術室におけるが 病棟機器管理業 透析室におけるが 透析室におけるが 透析室におけるが 急性血液浄化療	ける機器管 らける機器管 らける機器管理業 機器管理業 機器管理業 機器管理業 法における	理(1) 理(2) 管理(1) 管理(2) 務(1) 務(2) 務(1) 機器管理業務(1) 機器管理業務(2)				
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	CEに求められる機器	管理業務(1) 管理業務(2) 管理業務(3) 管理業務(4) 管理業務(5) 管理業務(6) 管理業務(7) 管理業務(8) 管理業務(9) 管理業務(10) 管理業務(11)		集中治療室にお カテーテル室によ カテーテル室における。 手術室における。 病棟機器管理業 透析室における。 透析室における。 透析室における。	ける機器管 らける機器管 らける機器管理業 機器管理業 機器管理業 法における 法における	理(1) 理(2) 管理(1) 管理(2) 務(1) 務(2) 務(1) 務(2) 機器管理業務(1) 機器管理業務(2) 理業務(1)				
	1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12 13	CEに求められる機器	管理業務(1) 管理業務(2) 管理業務(3) 管理業務(4) 管理業務(5) 管理業務(6) 管理業務(7) 管理業務(8) 管理業務(9) 管理業務(10) 管理業務(11) 管理業務(12)		集中治療室にお カテーテル室によ カテーテル室における。 手術室における。 病棟機器管理業 透析室における。 透析室における。 急性血液浄化療	ける機器管 らける機器に らける機器を 機器管理業 機器管理業 機器管理業 機器管理業 はたいにおける はたいにおける はたいにおける はたいによいによいによいによいによいによいによいによいによいによいによいによいによい	理(1) 理(2) 管理(1) 管理(2) 務(1) 務(2) 務(1) 務(2) 機器管理業務(1) 機器管理業務(2) 理業務(1)				

2023年度 吉田学園医療歯科専門学校 臨床工学科 別紙1

2023千段	口口子园区深!	图件导门子仪	₩ 休 土 -	一个		が、本文	, 1
授業科目	医用機器学概論 I	担当教員				宗万 孝次	
(科目ID)	22r124	(実務経験)	有☑	•	無	臨床工学技士として医療機器を用いた循環器、呼吸器、泌尿器 に関する業務に従事し、当該科目の教育を行う。	
対象年次•学期	1年・後期	担当教員				植村 進	
授業形態	講義	(実務経験)	有 🗹	ı	無	臨床工学技士として医療機器を用いた循環器、呼吸器、泌尿器 に関する業務に従事し、当該科目の教育を行う。	ļ
		担当教員				金谷 樹	
		(実務経験)	有	•	無	臨床工学技士として医療機器を用いた循環器、呼吸器、泌尿器 に関する業務に従事し、当該科目の教育を行う。	ļ
		担当教員					
		(実務経験)	有□		無		
		担当教員					
		(実務経験)	有□		無		
		担当教員					
		(実務経験)	有□		無		
		担当教員					
		(実務経験)	有□		無		
		担当教員					
		(実務経験)	有□		無		
		担当教員					
		(実務経験)	有□		無		
		担当教員					
		(実務経験)	有□		無		

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		生体機能代行装 (呼吸器系·循環系		担当教員				本吉 竜浩		
(科目ID)		21r219		(実務経験)	有┗	7 #		臨床工学技士として 業務に従事	医療機器を用いた血液浄化に関する	
対象年次・学期	1年•前	 前期		必修·選択区分	必修			単位数	1単位	
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	8			時間数	16時間	
授業目的		推持に必要な「機能を作 呼吸器・人工心肺装置・		」」とする機能の基礎知識を学 ヒ装置について学ぶ。	!న్.					
到達目標	生命約	推持管理装置の原理・	構成・作用を理解し	説明できる。						
テキスト・ 参考図書等	臨床コ	二学技士標準テキスト	第4版 (金原出版)						
		評価方法	評価割合(%)				評価基	準		
	試験 100'		100%							
評価方法・	レポー	+	%							
評価基準	小テス	.	%	試験により評価する。						
	提出物	di di	%							
	その他	<u> </u>	%							
履修上の 留意事項	どんな	どんなことでも、遠慮しないで質問をして下さい。								
	回数		履修主題					履修内容		
	1	呼吸療法(1)			呼吸器の	基礎				
	2	呼吸療法(2)			呼吸器の	実際				
	3	血液透析(1)		血液透析の基礎						
	4	血液透析(2)			血液透析の実際					
	5	人工心肺(1)			人工心肺	の基礎				
	6	人工心肺(2)			人工心肺	の実際				
	7	補助循環(1)			ECMO, I	ABPの基準	儊			
履修主題· 履修内容	8	補助循環(2)			ECMO, I	ABPの実際	祭			
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		臨床医学総訂	侖 I	担当教員			本吉 竜浩				
(科目ID)				(実務経験)	有区	# \square		別紙1参照			
対象年次・学期	1年・後	支期		必修·選択区分	必修		単位数	2単位			
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15	30時間					
授業目的	チーム 学ぶ。		×的な医学情報を共	有したうえで、それぞれの専	それぞれの専門性を発揮することが重要となるため、臨床工学技士に必要な臨床医学						
到達目標	特に循	5環器、消化器、腎泌 尿	R 器、集中治療領域	に特化して医療機器を用いた	を用いた治療と関連づけて理解し説明できるようになる。						
テキスト・ 参考図書等		ニ学プラクティカル・フル ニ学技士標準テキスト									
		評価方法	評価割合(%)		評価基準						
	試験		%								
評価方法・	レポート 100										
評価基準	小テスト			レポートにより評価します							
	提出物										
	その他 9/										
履修上の 留意事項	プリン	プリントや板書を中心にした講義形式の授業。									
	回数		履修主題				履修内容				
	1	総論			ガイダンス及	び疾患と医療	機器を用いた治療に	ついて			
	2	各論①循環器疾患と	治療(1)		心臓・冠動脈の解剖と虚血性心疾患の病態整理及び合併症						
	3	各論①循環器疾患と	治療(2)		心臓・冠動脈	の解剖と虚血	性心疾患の診断(EC	G、冠動脈造影)			
	4	各論①循環器疾患と	治療(3)		心臓カテーラ	・ル検査室と冠	動脈造影の流れ				
	5	各論①循環器疾患と	治療(4)		心臓カテーラ	・ル室における	CE業務とスタッフ間=	ミュニケーション			
	6	各論②消化器疾患と	治療(1)		消化器内視	鏡に関わる疾患	鼠の種類とそれぞれの	病態整理			
履修主題•	7	各論②消化器疾患と	治療(2)		消化器内視	鏡について(原	理、構造、種類、特徵	など)			
履修内容	8	各論②消化器疾患と	治療(3)		消化器内視	鏡検査及び治療	いない かいまた かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅ				
	9	各論②消化器疾患と	治療(4)		内視鏡室に	おけるCE業務と	:患者及びスタッフとの	りコミュニケーション			
	10	各論③腎疾患と治療	(1)		腎不全の病	態整理とその症	状				
	11	各論③腎疾患と治療	(2)		血液透析(H	D)の治療原理	 と種類				
	12	各論③腎疾患と治療	(3)		透析中の合	 併症とその対応	、起こりえるトラブル	シューティング			
	13	各論③腎疾患と治療	(4)		透析室におけるCE業務と患者及びスタッフとのコミュニケーション						
	14	総説(1)			循環器疾患、呼吸器疾患、腎泌尿器疾患						
	15	総説(2)			消化器疾患						

2023年度 吉田学園医療歯科専門学校 臨床工学科 別紙1

2023千皮	口口子园区深!	图件导门于仅	岡	工于作	+	为1 和1
授業科目	臨床医学総論 I	担当教員				奥山 堅太
(科目ID)		(実務経験)	有	Ø	無	臨床工学技士として医療機器を用いた循環器に関する業 務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次·学期	1年・後期	担当教員				寺島 寿江
授業形態	講義	(実務経験)	有		無	臨床工学技士として医療機器を用いた消化器に関する業 務に従事し、当該科目の教育を行う
		担当教員				
		(実務経験)	有		無	
		担当教員				
		(実務経験)	有		無	
		担当教員				
		(実務経験)	有		無	
		担当教員				
		(実務経験)	有		無	
		担当教員				
		(実務経験)	有		無	
		担当教員				
		(実務経験)	有		無	
		担当教員				
		(実務経験)	有		無	
		担当教員				
		(実務経験)	有		無	